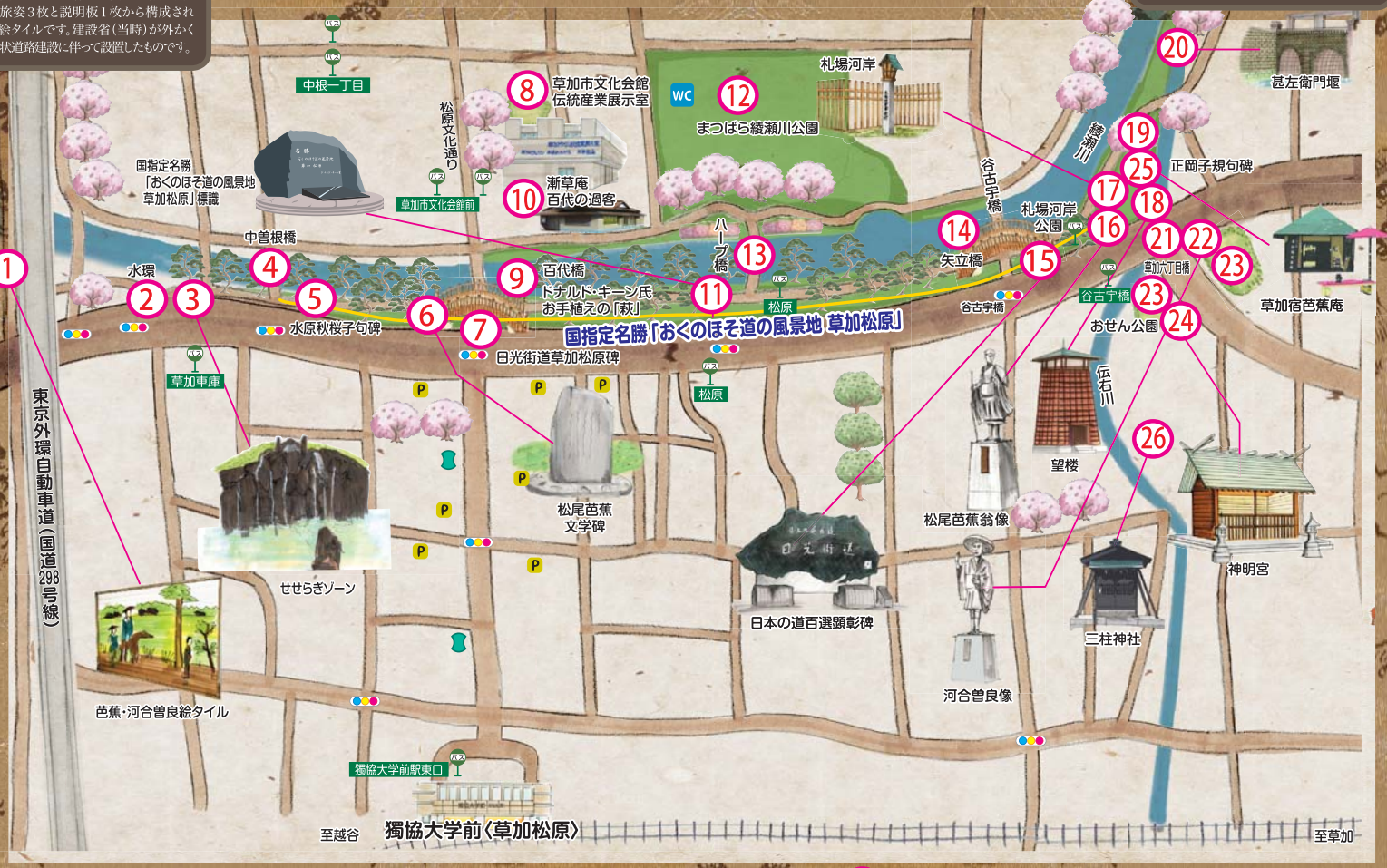
草加松原探索マップ



1 芭蕉・河合曽良絵タイル
（ばしょう・かわいそらえたいる）

外かく環状道路の下をくぐる茶屋通りに面したポンプ場の壁面に、芭蕉と曽良の旅姿3枚と説明板1枚から構成される絵タイルです。建設省（当時）が外かく環状道路建設に伴って設置したものです。

2 水環（すいかん）

草加松原の北端にあるドーナツ形の御影石の彫刻です。中川・綾瀬川流域の水害を防止する計画が立案されたことを記念して設置されました。作者は三沢憲司氏で、人と自然が環（わ）になって治水に取り組む姿を象徴しています。

3 せせらぎゾーン

草加松原遊歩道の北端にある、親水施設です。夏には子どもたちが集まり水遊びでにぎわいます。

4 中曽根橋（なかそねばし）

草加松原の北方にあり、綾瀬川に架かる木製欄干の人道橋で、純和風の造りになっています。
草加松原と綾瀬川の織りなす景観を眺める絶好のポイントです。

5 水原秋桜子句碑
（みずはらしゅうおうしくひ）

「草紅葉草加煎餅を干しにけり」
俳誌「馬酔木」を主宰した俳人である水原秋桜子が、春日部の安孫子医院に通勤していた頃に詠んだ作品です。

6 松尾芭蕉文学碑
（まつおばしょうぶんがくひ）

表面には、『おくのほそ道』の草加の条が刻まれています。書道家の木村笛風氏の揮毫によるものです。

7 日光街道草加松原碑
（にっこうかいどうそうかまつばらひ）

百代橋の下に設置されている、2基の石の角柱。草加松原が日本の道百選に選ばれたことと、国の名勝に指定されたことを記念して寄贈されたものです。

8 伝統産業展示室・売店「ぽりっせ」
（でんとうさんぎょうてんじしつ・ばいてん「ぽりっせ」）

草加市文化会館1階に常設され、草加の3大地場産業であるせんべい、ゆかた染め、皮革の歴史や製造工程の展示紹介をしています。
また、地場産品の販売や、せんべいの手焼き体験、クラフト体験教室（要予約）なども行っています。

9 百代橋（ひゃくたいばし）

草加松原遊歩道に2つある太鼓形の橋の1つです。昭和61年（1986）に建設され、橋名は『おくのほそ道』の冒頭「月日は百代の過客にして…」にちなんで名付けられました。橋の上からの松並木の眺めがよく、絶好のビュースポットとなっています。

10 漸草庵　百代の過客
（ぜんそうあん　はくたいのかかく）

日本文学研究者のドナルド・キーン氏から命名していただいた木造平屋建ての数寄屋建築。茶道・華道・琴・三味線など、草加の和の文化を発信するための施設です。なお、同施設内には、市内外から訪れた方のためのお休み処もあり、有料で呈茶サービスも行っています。

11 「国指定名勝おくのほそ道の風景地　草加松原」標識
（くにしていめいしょうおくのほそみちのふうけいちそうかまつばらひょうしき）

草加松原が「国指定名勝」になったことを記念して平成27年（2015）3月に建立された標識です。松尾芭蕉が『おくのほそ道』の旅を始めた元禄時代の華やかさと、宿場町として栄えた草加の力強さをコンセプトに、庭園デザイナーの加園貢氏によりデザインされました。揮毫は、草加市ともゆかり深い日本文学者で文化勲章受章者のドナルド・キーン氏によるものです。石板には紀行文『おくのほそ道』の行程図を彫り込んでおり、芭蕉の足跡をご覧いただくことができます。

12 まつばら綾瀬川公園
（まつばらあやせがわこうえん）

草加松原の対岸に位置する広さ約4．1haの広場です。市民の憩いの場として親しまれており、各種イベント会場としても用いられています。公園名は、市制60周年を記念して市民から募集し、「まつばら綾瀬川公園」に決定。平成30年（2018）11月11日に行われた記念式典で発表されました。

13 ハーブ橋（はーぶばし）

草加松原と対岸のまつばら綾瀬川公園を結んでいる人道橋です。草加市では音楽都市宣言をしており、国際ハープフェスティバルを毎年11月に開催するなど、音楽と文化のまちづくりを進めていることから名付けられました。欄干には、ハープをかたどった小さなブロンズ像が18体据えられています。また、日没から午後9時までの間、橋梁がライトアップされ、草加松原を彩ります。

14 矢立橋（やたてばし）

草加松原遊歩道に2つある太鼓形の橋の1つです。平成6年（1994）に建設され、橋名は『おくのほそ道』の「行く春や鳥啼き魚の目は泪、これを矢立の初めとして…」にちなんで名付けられました。

15 日本の道百選顕彰碑
（にほんのみちひゃくせんけんしょうひ）

日本の道百選は、日本全国の特徴ある道路を建設省（当時）と「道の日」実行委員会が選定、表彰したものです。全国で104件が選定され、埼玉県内では、草加松原と秩父往還道の2件だけです。矢立橋の南側に埼玉県をかたどった顕彰碑が建っています。

16 松尾芭蕉翁像
（まつおばしょうおうぞう）

奥の細道旅立ち300年を記念して制作されたブロンズ像です。像は右手に杖を持ち、笠をかけ、友人や門弟たちとの別れを惜しむかのように、千住方面を振り返る「見返りの姿」です。

17 札場河岸（ふだばかし）

綾瀬川を利用した舟運に使われていた私河岸です。所有していた家が、高札の立った場所にあり、屋号が「札場」であったことからそう呼ばれています。綾瀬川の護岸工事で取り除かれた船着き場の石段を復元して当時の雰囲気を再現しています。

18 望楼（ぼうろう）

石垣の上に建つ、埼玉県産のスギ、ヒノキを使った木造の五角形の建物です。内部は、ら旋階段になっており、草加松原を見渡せます。また、午後7時から午後10時までライトアップされ、川面に望楼が映し出されます。

19 正岡子規句碑
（まさおかしきくひ）

「梅を見て野を見て行きぬ草加まで」
明治27年（1894）3月、高浜虚子を伴って、千住から草加まで吟行した時の一句です。

20 甚左衛門堰（じんざえもんぜき）

伝右川と綾瀬川を結ぶ二連アーチ形のレンガ造りの水門です。灌漑や増水の時に使用された堰で、現存する堰は明治25年（1894）に築造されたもので、埼玉県の指定文化財です。

21 草加六丁目橋
（そうかろくちょうめばし）

旧日光街道にあり、かつて大橋と呼ばれた立派な橋です。親柱には、日光東照宮の灯篭を模した常夜灯が置かれ、中央には幟旗をイメージした照明灯が建っています。欄干には、草加のシンボルである松原と草加せんべいの浮き彫りがはめ込まれています。

22 河合曽良像（かわいそらぞう）

松尾芭蕉像のある札場河岸公園にほど近いおせん公園に平成20年（2008）10月25日に設置されたブロンズ像です。市政50周年を記念して「河合曽良像をつくる会」が建立を計画し、市民や各種団体、企業に寄付を呼びかけました。像の製作者は、市内在住の彫刻家で芭蕉像を手掛けた麦倉忠彦氏です。芭蕉の門弟である河合曽良は、芭蕉がおくのほそ道行脚に旅立った時の随行者で、『曽良随行日記』を残しています。

23 おせん公園（おせんこうえん）

神明宮の東にある公園です。公園内には、せんべいに見立てた自然石「草加せんべい発祥の地碑」が建っており、市民の憩いの場となっています。

24 神明宮（しんめいぐう）

一説には、江戸初期宅地内に小さな社を建立したのに始まり、正徳3年（1713）、草加宿の総鎮守として現在の位置に移ったといわれています。
天保年間に火災に遭い、社殿が焼失しましたが、弘化4年（1847）に現在の社殿が再建されました。

25 草加宿芭蕉庵
（そうかしゅくばしょうあん）

札場河岸公園内に設置されていた休憩舎を改修し、平成30年5月16日にオープンしたお休み処です。建物には、埼玉県産のスギ、ヒノキが使用されており、市民ボランティアによる観光案内のほか、地場産品の販売も行っています。10時30分～16時。
休館日は月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始。

26 三柱神社（みつばしらじんじゃ）

はじめ、第六天を祀る個人持ちの屋敷神でしたが、明治期に弁財天と稲荷神を合祀して今に至りました。近年は境内整備が図られ、伝右川を背に美しい景観がかもし出されています。